

パワーアンプ /EM-A シリーズ (EM-A083/A163/A244/A364) 設置上の重要なご注意

本書では、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産の損害を未然に防止するうえで特に重要な注意点を記載しています。
設置後、必ず下記内容を確認してください。不具合がある場合は、速やかにサービス窓口にご連絡ください。

設置工事時のチェックポイント ※設置工事時には下記の項目を確認してください。

チェック1 「設置場所について」

- チェック!** ファンや通風孔部分をふさいでいませんか。
- チェック!** ファンや通風孔部分からの放熱を妨げるものはありませんか。

チェック2 「配線について」

- チェック!** 接続負荷が適正になっていますか。
→最大スピーカー負荷時のインピーダンスを確認をします。(下表を参照)

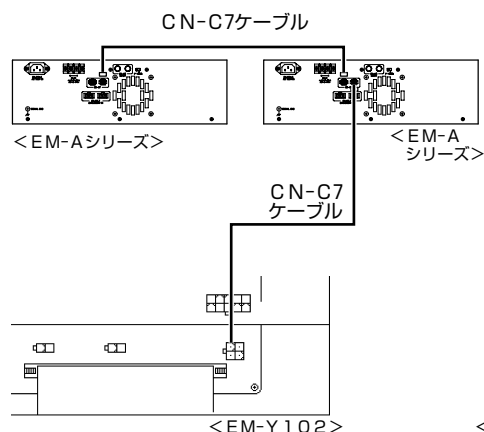
機種名	定格出力	インピーダンス
EM-A083	80 W 以下	125 Ω 以上
EM-A163	160 W 以下	62.5 Ω 以上
EM-A244	240 W 以下	41.7 Ω 以上
EM-A364	360 W 以下	27.8 Ω 以上

- チェック!** 大信号ラインと小信号ラインを離してありますか。
※大信号ライン(パワーアンプの出力線やスピーカー回線の接続線など)に、小信号ライン(ミキサー入力やマイク入力など)が接近すると、放送システムが不安定になり、発振を起こす原因となります。

- チェック!** パワーアンプを複数台で使用する場合、パワーアンプ間を CN-C7 ケーブルで接続していますか。
※パワーアンプを複数台で使用する場合は保護回路を同期させるため、パワーアンプ間を CN-C7 ケーブルで接続する必要があります。
下記の接続例を参考に、接続を確認してください。
詳細は、各システムの設置説明書をご覧ください。

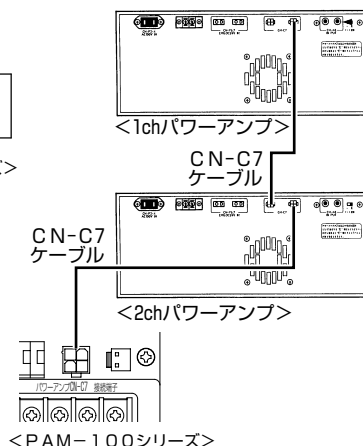
◆接続例1

インテリジェントPAシステム
EM-1000シリーズの場合



◆接続例2

デスク型音響装置
PAM-100シリーズの場合



設置工事時のチェックポイント (つづき) ※設置工事時には下記の項目を確認してください。

チェック3
「再生確認時について」

- チェック! 放送時に音が歪んでいませんか。
- チェック! 放送時に、パワーアンプ異常灯が点灯していませんか。
- チェック! ミキサーなどのレベルメーターが適正に表示されていますか。
→ボリュームを上げて、レベルメーターの振れが適正かを確認します。
- チェック! 高い音(“チー”や“シー”という音)が聞えませんか。
→聞えないことを確認します。
- チェック! スピーカーから音が聞えないときに、レベルメーターが振れていませんか。
- チェック! 入力無音時に不必要な出力が発生していませんか。
→入力無音時に出力を測定し、確認します。

チェック4
「並列運転時について」

- チェック! 各アンプで正常な音がでていますか。(歪や音途切れが発生していませんか。)
→出力の並列接続をはずし、各アンプを確認します。
- チェック! パワーアンプへの信号入力部の接触不良がありませんか。
→フォンプラグの勘合部(接触)に異常がないかを確認します。
- チェック! 電源投入時、ほぼ同一のタイミングで電源が入りますか。
→電源表示灯の点灯タイミングに 1 秒以上のズレがないか確認します。
- チェック! 下記の<条件>にしたがって、パワーアンプが並列接続されていますか。

<条件>

同一機種… 3台まで

異機種混同…同一グループ内で 2 機種合計 3 台まで

<パワーアンプの機種ごとのグループ分け>

グループ1	グループ2
EM-A083 (80 W)	EM-A243 (240 W)
EM-A163 (160 W)	EM-A363 (360 W)
EM-A244 (240 W)	
EM-A364 (360 W)	

※ 同じグループ内の組み合わせで使用してください。

※ パワーアンプの並列運転時には、特性のばらつきによってロスが発生し、下記の状態になることがあります。

- ・セットの発熱量が増加する。
- ・接続できるスピーカー負荷が小さくなる。

※ パワーアンプ容量の合計に対して、スピーカー負荷の余裕がないときには、単独運転をおすすめします。

※ EM-A243 と EM-A363 は生産完了機種です。

チェック項目に不具合があった場合は…

システムの設置説明書を確認し、適切な処置を行なってください。

それでも不具合が改善されない場合は、サービス窓口までお問い合わせください。